

和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
スミナガシ	タテハチョウ科	表は青緑の輝き 裏は「墨流し」 赤い口吻	X	X	X	本州以南



奥多摩 5月23日 (2017年)



奥多摩 5月16日 (2018年) 「墨流し」模様、赤い口吻が目立つ



八王子市 5月22日 (2017年) 登山路脇でミネラル補給



↑ 八王子市 8月17日 (2019年)
山頂でテリトリーを張る♂

成虫発生時期 (月)												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
食草 ○ 食樹								発生回数/年	越冬形態			
アワブキ、ヤマビワほか								2	蛹 (さなぎ)			

生田緑地にも昔はいたらしいのですが、どうやら消えてしまったようです。見たことがありません。奥多摩や高尾山ではミヤマカラスアゲハの発生と同じ5月中～下旬に山道で吸水している姿を目にしますが、数の多い蝶ではありません。

青緑に輝く羽の表もさることながら、名前の由来の裏の「墨流し」模様、それに加えて赤い口吻も印象的です。

それにしても「スミナガシ」とは粋な名前。サカハチチョウ、シータテハ、エルタテハといった類とはひと味違う命名者のセンスの良さが感じられます。



八王子市 8月2日（2020年） 山頂でデリトリーを張るオス



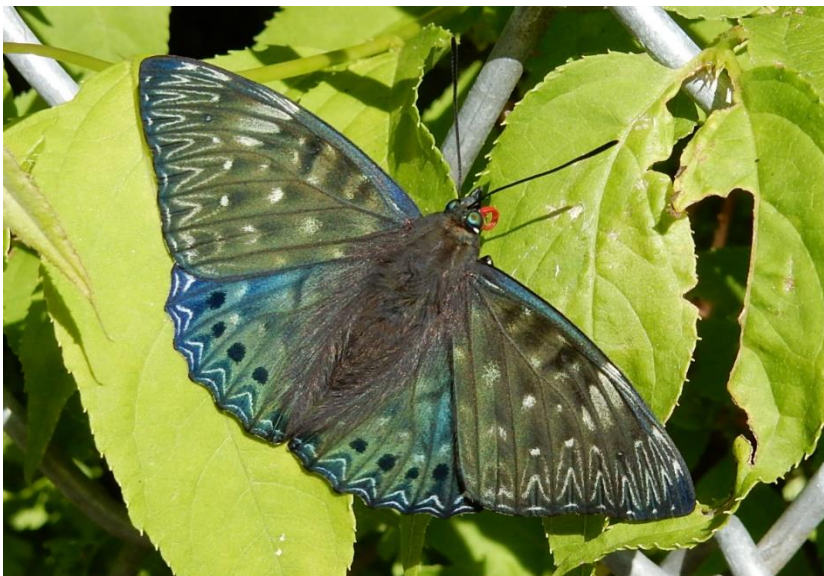
長野県松本市 8月9日（2020年） 新島々バスターミナルで飛び廻ったのちに足にとまって開翅



奥多摩 5月23日（2017年） 崖面にとまって開翅



奥多摩 5月16日（2018年） 翅・口吻の配色の妙、惜しむらくは「碧眼」がよくわからない・・・



奥多摩 5月22日（2016年）

翅、口吻、碧眼と三拍子揃うととまっているところが・・・